

日本語を母語としない子どもたちとの 日本の出会い物語 ～ぼく、いいものいっぱい～

お話しして下さる方 **善元 幸夫 さん**

(元新宿区立大久保小学校日本語国際学級教員・東京学芸大学非常勤講師)

期日 **2016年 11月 5日(土) 午後2時～4時半**

会場 **日本教育会館 2階 東京教組会議室**

都営新宿線・三田線 メトロ半蔵門線 神保町駅下車4分 JR 水道橋下車 15分

参加費 **1000円**

今回は若い教職員の悩みを取り上げ学習交流します。

「外国籍の子どもが増えている。対応に精一杯で、学級づくりもうまくできない」とか、心ない同僚の言葉「日本に住んで困ることがあるなら自分の国に帰ればいい」に傷ついたり、若い教職員は悪戦苦闘。今はどのクラスにも一人や二人は国籍の違う子どもたちが在籍しています。日本語もままならない子どもたちを前にどうしたらよいか困っている教職員は大勢いるのではない

でしょうか。

お話しくださる善元さんは東京教組の大先輩。江戸川、新宿と日本語学級で残留孤児2世や多国籍の子どもたちと奮闘されてきました。善元さんに感じられるのは子どもたちに徹底的に寄り添う姿勢、温かいまなざしと、差別を許さない心です。どの子にも学ぶ権利がある、しかし体制は整わず教師に丸投げ、忙しさに流され子どもは置いてきぼり、こんな悪循環を改善するためのヒントがたくさんうかがえることと思います。

教育の国家主導が強まり、学力偏重、「道徳的」なるものの押し付けなど、教室は多国籍の子どものみならず子どもを大切にしない場所になってきています。学校は、教育は、どうあるべきか共に考えましょう。地域で共にならんでいる女性や、もちろん男性も保護者の方にも声をかけ、ぜひ多くの方の参加をお願いいたします。



<主催> 子どもと女性の人権を考える東京の会

<事務局> 東京教組女性部・青年部 ☎03-5276-1311